

活動報告書

報告者氏名： 荒川 裕子

所属：和歌山県立みはま支援学校

記録日：2014年2月28日

【対象児（群）の情報】

・ 学年

小学部6年生の男児

・ 障害名

ネマリンミオパチー

・ 障害と困難の内容

筋疾患があるため、ペンを握る等の書字学習がしにくい。

パソコン等の情報機器を使用した学習を好んではいるが、マウス使用時にかなりの労力が必要になる。

新しい活動内容になかなか取り組もうとしない。

【活動目的】

・ 当初のねらい

本児は筋疾患があり、日常を病院のベッド上で過ごしている。授業形態も教師が病院を訪問するベッドサイド学習である。病棟外へ出ることは現状ではほとんどなく、その為院外との直接的なかわりもほぼない。学習は教科と自立活動を主とした指導とを行っている。教科指導では、筋疾患がありペンを握って書くことにかかなり困難を要することから、授業中は書字での学習形態をほとんど取らない。その為、漢字や数字を誤った書き順や書き方で記憶しているところがある。また、実体験の少なさや限られた人間関係で生活していること等から積極的に新しい何かに取り組むことが少ない傾向にある。しかし、パソコンなどの情報機器には興味を示しており、自らマウスを使用してカレンダーも作成している。ただし、マウスの使用にもかなりの労力を要し、本児への負担度も大きい。これらのことを踏まえて学習環境、学習内容や活動が限られている中からより本児にとって使用しやすいiPadのさまざまなアプリを使用して、学習支援及び主体的な活動を引き出すことを目的とした。

・ 実施期間

2012年6月から2013年1月までの期間の中から月に3～4回程度の頻度で教科指導（国語・算数）及び自立活動の授業時に使用

・ 実施者

荒川裕子（和歌山県立みはま支援学校教諭）

・ 実施者と対象児の関係

本児の担任教員

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

《教科指導について》

漢字や数字は読めるが、「書いてみる？」と聞いてもなかなか書こうとしない。iPad を使用して筆算をさせたところ、数字の書き順や形を誤って記憶していた。

《自立活動の指導について》

「今日は～やってみようか？」と新しい活動内容を提案してもすぐに「やってみる」と言いにくい。

・活動の具体的内容

《教科指導について》

お絵かきアプリとモジルートアプリを使用した。お絵かきアプリでは、漢字の書き順確認の際に使用した。

1画に1色を当てはめて色を変えながら提示していくようにし、書き順を確かめた。数字の書き順や形を誤って記憶していたので、モジルートを使用して確認した。

《自立活動の指導について》

カメラ・ビデオアプリと Photo Slideshow Director アプリを使用した。カメラ・ビデオアプリは、主に本校で飼育している生物の観察、登校生や母親とのビデオレターのやりとりに使用した。Photo Slideshow Director は卒業制作として使用した。

・対象児（群）の事後の変化

《教科指導について》

漢字の学習は1画を1色ずつ変えて書き順を確かめたので、楽しみながら行うことができた。もともと書き順の学習は好きなようだったが、意欲的に取り組むことができた。数字については形を確認することができ、自分で書いても適切な形に近づいてきた。

《自立活動の指導について》

本来授業の様子やビデオレター用に撮影されることをあまり好まなかったが、撮影後見やすい画面ですぐに確認できることから、それほど嫌がらなくなった。卒業制作については、写真の選択や写真のコメント、文字入力すべてを自分で行うと告げ積極的に取り組むようになり、主体的な活動へつながった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

《教科指導について》

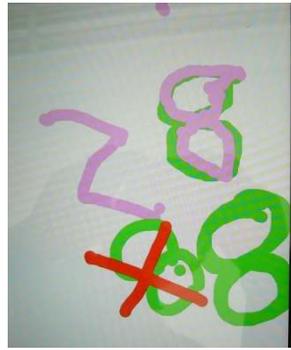
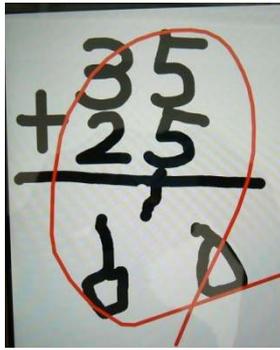
漢字や数字は読むことができても、実際に自分で書いていかないと正しい書き方や形を覚えることができにくいと感じた。また、実際に書くことで記憶にも残りやすいことを改めて実感した。

《自立活動の指導について》

パソコン操作の時はマウスによる細かい調整が必要になり時間も労力もかなり要したが、iPad を使用することで本児の体に対する負担がかなり軽減されたと感じる。そのせいか、パソコンよりも iPad の使用を求めることが多くなり、また他のアプリを自分から開いてみるといった主体的な活動もみられるようになった。自分でできることの達成感を感じ取ることができるからか、他の学習活動にも積極的に取り組む姿勢もみられてきた。

・エビデンス（具体的数値など）

《教科指導について》



左写真は算数の筆算のものだが、6の書き方が形も書き順も誤っていた。一通り数字を書かせてみたところ、5や8も誤った形や書き順で記憶しておりモジルートアプリを使用した。右写真は、使用した後に朝の会で日にちを確認したものである。以前は8の形を○2つ重ねて書いていたが、右上から書き始めることを理解しており、ほぼ適切な形に書けるようになってきた。

《自立活動について》



卒業式に自身の写真を使用してのライドショーを流す目的で作成している。左写真はアプリを使用し始めた頃のものだが、文字入力の際ひらがなのみであった。しかし、授業を重ね入力していく中、自分で漢字に変換できることに気がつき、さらにアルファベットも使用することが可能なことにも気がついた。(中写真)そこからはさまざまなコメントを出すようになり同時にできるだけ漢字を使っていきたいと意欲を示し、どの漢字が適切かを考えるようにもなった。また、文字色も単色であったのが、写真毎に色を変えるようになり、自分なりにアレンジするようになった。(右写真)

・その他エピソード（画像などを含めて）

筋疾患のある児童にとって、学習を行う際にどのような支援が効果的であるかを考えたときに、情報端末機の使用は必須であると感じていた。とりわけiPadは、わずかな指先の力で入力や操作ができること、持ち運びが簡単で提示しやすいこと、確認や修正がその場ででき簡単であること、様々なアプリがあり、児童の実態や課題に見合った内容のものを精選して取り入れられ、主体的な活動を引き出すには有効だった。また、使用していく中で、学習のつまずきを知ることができ新たな課題を設定することもできた。(例として、漢字及び数字の書き順や文字入力の際に濁点や促音の使用が曖昧だった点が挙げられる)何より、本児がiPadの使用を予告しておくことに楽しみをするようになったことが一番の成果だと感じる。こちらが何も言わなくても自分から積極的に活動に取り組む様子や様々なアプリにチャレンジする様子を見ていると、主体的な活動を引き出す目的として今後も使用していきたいと思う。内容についてはさらに検討し、より効果的なアプリや活用方法を探っていく必要があると考えられる。